

指導と評価の一体化を目指して 国語

学習指導要領の総則では、「授業の改善」（指導）と「評価の改善」（評価）を一体的に充実させていくことの重要性が示されています。学習評価によって、「児童生徒にどういった力が身に付いたか」を的確に捉えて、教師は指導の改善を図ること、児童生徒は自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることが大切です。ここでは、1. 学習評価の進め方の手順、2. 指導と評価の計画の作成のポイントについて示します。

1. 学習評価の進め方の手順

- (1) 単元の目標を設定
- (2) 言語活動を設定
- (3) 単元の評価規準を設定
- (4) 「指導と評価の計画」を作成

授業を行う

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて、重点を決め、設定する。
- 前単元とのつながりや、児童・生徒の学習状況等を踏まえて設定する。

- (1)で設定した重点となる資質・能力を発揮させることができる言語活動を設定する。

- 評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料（児童・生徒の反応やパフォーマンスなど）を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりする。

- (3)に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童・生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。
- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価(A、B、C)を行う。

2. 指導と評価の計画の作成のポイント

<単元計画の例>

単元名 読んで感じたことや考えたことをまとめよう
教材名 ごんぎつね

1 単元の目標

- (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。

〔知識及び技能〕C(1)オ

- (2) 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ

- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ

- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

2 単元で取り上げる言語活動

物語を読んで、理解したことに基づいて、感じたことや考えたことを文章にまとめる。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)イ)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(C(1)オ)	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	①進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って、感じたことや考えたことを文章にまとめようとしている。

- ・単元の目標や評価規準、単位時間のねらい・学習活動をもとに評価規準を位置付けます。
- ・毎時間記録に残す評価を行う必要はありませんが、各観点について総括的な評価ができるように配慮します。

4 指導と評価の計画の例 (全9時間)

時間	学習活動	指導上の留意点	記録	評価規準・評価方法等
1 ・ 2 ・ 3	<p>○学習のねらいや進め方を捉え、学習の見通しをもつ。</p> <p>○「ごんぎつね」を読み、内容の大体を捉える。</p> <p>○初発の感想を書き、読み合う。</p> <p>○単元の学習課題を確認する。</p> <p>ごんの思いは兵十に伝わったかについて、読んだことを基に、感じたことや考えたことを文章にまとめよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいと言語活動の内容を具体的に示し、学習の見通しがもてるようにする。 ・登場人物、主な出来事、結末などを捉えながら読むようにする。 ・場面の様子、登場人物の言動や様子などを表す語句に着目して読むように指導する。 ・必要に応じて辞書を活用するように指示する。 ・心に強く残ったこと、疑問に思ったことなどについて書くように指示する。 ・初発の感想のうち、多かった感動や疑問、学級全体で話し合いたいことなどを適宜取り上げていくようにする。 	第2・3時	<p>[知識・技能①]</p> <p>・場面の様子や登場人物の言動、様子などを表す語句について着目し、語彙を豊かにしているかを確認する。</p> <p>ノート・ワークシート</p>
4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	<p>○ごんや兵十の気持ちが大きく変化した場面はどこかについて考えをまとめる。</p> <p>【場面の移り変わり】</p> <p>①ごんがいたずらばかりする場面 ↓</p> <p>②ごんがいたずらを後悔する場面 ↓</p> <p>③ごんがつぐないを始める場面 ↓</p> <p>④ごんが兵十と加助の後をついていく場面 ↓</p> <p>⑤ごんが兵十と加助の話をこっそり聞いている場面 ↓</p> <p>⑥ごんが兵十にうたれてしまう場面 ※[]は、取り上げる二つの場面</p> <p>○うなぎのいたずらへのつぐないを始める場面のごん</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物語全体の場面の移り変わりを確認した上で、ごんと兵十のお互いに対する見方や行動が大きく動いた場面として、「ごんがつぐないを始める場面」(③の場面)と、「ごんが兵十にうたれてしまう場面」(⑥の場面)を取り上げる。 ・ごんと兵十の気持ちとその根拠となった言葉や文をまとめるよう指導する。 		
	○うなぎのいたずらへのつぐないを始める場面のごん	・表情やしぐさなどを想像しながら読むように指導する。		

	<p>兵十の様子や行動、気持ちを想像する。 (③の場面)</p> <p>○ごんが兵十に打たれてしまう場面のごんと兵十の気持ちの変化を考える。 (⑥の場面)</p> <p>○学習課題に示された、ごんの思いが兵十に伝わったかどうかについて、友達と考えを交流する。</p>	<p>・行動や会話、場面の状況を表す言葉などに着目するように指導する。</p> <p>・③や⑥の場面におけるノートやワークシートを基にして考えをまとめるよう指導する。</p> <p>・友達の意見で参考になったことを適宜付箋等にまとめるよう指示する。</p>	<p>第7時</p> <p>第7時</p>	<p>[思考・判断・表現①] ・ごんと兵十の様子や行動、気持ちの変化について想像しているかを確認する。 観察、ノート・ワークシート</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度①] ・ごんや兵十の気持ちの変化について場面の移り変わり結び付けて自分の考えをまとめようとしているかを確認する。 観察、ノート・ワークシート</p>
<p>8 ・ 9</p>	<p>○初発の感想を振り返りながら、物語を読んだことに基づいて感じたことや考えたことを文章にまとめる。</p>	<p>・これまでの学習を振り返り、物語を読んで理解したことに基づいて、感じたことや考えたことをまとめるよう指示する。</p> <p>・初発の感想を振り返り、どのように自分の考えが変わったのかを書くよう指導する。</p>	<p>第8 ・ 9時</p>	<p>[思考・判断・表現②] ・文章を読んで理解したことに基づいて、既習内容と結び付けて自分の感想や考えを記述しているかを確認する。 ノート・ワークシート</p>

各観点の記録に残す評価のポイント

<p>[知識・技能]① 第2・3時</p> <p>・物語が六つの場面で描かれていることを確認し、登場人物や状況の設定、事件の発端、展開、山場などについて指導する。その上で、場面の様子や登場人物の行動、気持ちの変化や性格を表す言葉を取り上げ、言葉の意味を調べたり他の言葉と比較したりして分かったことをノートやワークシートに記述している児童を「おおむね満足できる」状況(B)と評価する。</p> <p>・例えば、⑤の場面において、「神様にお礼を言うんじゃあ、おれは引き合わないなあ。」という言葉から、「引き合う」という言葉を辞書で調べたり、別の言葉で言い換えた表現などを記述していたりする児童を「おおむね満足できる」状況(B)と設定している。</p>
<p>[思考・判断・表現]① 第7時</p> <p>・「ごんがつぐないを始める場面」と「ごんが兵十にうたれてしまう場面」についてまとめたものなどを基にして交流できるように指導する。その結果、登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、理由を明確にしながら、ごんの思いが兵十に伝わったかどうかについてノートやワークシートに記述している児童を「おおむね満足できる」状況(B)と評価する。</p>
<p>[思考・判断・表現]② 第8・9時</p> <p>・これまでの学習を振り返り、「ごんぎつね」を読んで感じたことや考えたことをまとめるよう指導する。そのため、文章を読んで理解したことに基づいて、既習の内容と結び付けて自分の感想や考えをノートやワークシートにまとめている児童を「おおむね満足できる」状況(B)と評価する。</p>
<p>「主体的に学習に取り組む態度」 第7時</p> <p>・感想に取り入れられそうな言葉を③と⑥の場面におけるノートやワークシートや友達から聞いた言葉などの情報の中から選ぶようとしている児童を「おおむね満足できる」状況(B)と評価する。</p> <p>・具体的には、児童が学習課題を意識して、「青いけむり」、「ばたりと取り落としました」などの言葉に着目して感想に書くための言葉を選択したり、感想を書くために友達と交流をして集めた付箋などの言葉から選択したりしている姿から、「おおむね満足できる」状況(B)と評価する。</p>